

海老沢達郎の教養講座

第3回 国民一人当たりのGDP、日本は (2021年6月15日)

GDP (Gross Domestic Product) とは「国内総生産」のことで、「国内で一定期間内に生産されたモノやサービスの付加価値の合計額」(内閣府資料)のことで、簡単に言うと、『国の経済規模』を表します。ただ、人口が多いと当然、国のGDPの総額も多くなります(3頁の中国・インドの項参照)。一方、「国民一人当たりのGDP」(GDP per capita)とは、GDPの総額をその国の人口で割ったもので、『国民の豊かさ』を表すものとも言われております。表1は、World Bank(世界銀行)の2019年のOECD加盟国の「国民一人当たりのGDP」の資料に基づいて、加盟国中25位までを順位づけいたしました。OECD(経済開発協力機構)とは、「欧米諸国、日本などを含む37カ国(現在)からなる市場主義の先進国(新興国も多少参加)の集まり」と言われております。左側が米ドルに換算して出した総額です。右側が各国の物価水準を考慮したPPP(Purchasing Power Parity)方式で国際ドルに換算して出した総額です。それでは、下記の表を見ていきましょう。



表1

順位	国名	米ドル	順位	国名	PPP (国際ドル)
1	ルクセンブルク	114,685	1	ルクセンブルク	121,293
2	スイス	81,989	2	アイルランド	88,241
3	アイルランド	78,779	3	スイス	70,989
4	ノルウェー	75,420	4	ノルウェー	66,832
5	アイスランド	67,084	5	アメリカ	65,298
6	アメリカ	65,298	6	デンマーク	60,179
7	デンマーク	60,213	7	アイスランド	60,061
8	オーストラリア	55,057	8	オランダ	59,554
9	オランダ	52,295	9	オーストリア	58,946

10	スウェーデン	51,648	10	ドイツ	56,278
11	オーストリア	50,122	11	スウェーデン	55,820
12	フィンランド	48,771	12	ベルギー	54,905
13	ドイツ	46,468	13	オーストラリア	53,469
14	ベルギー	46,345	14	フィンランド	51,426
15	カナダ	46,190	15	カナダ	51,342
16	イスラエル	43,589	16	フランス	49,435
17	イギリス	42,329	17	イギリス	48,698
18	ニュージーランド	41,558	18	イタリア	44,248
19	フランス	40,496	19	ニュージーランド	43,953
20	日本	40,247	20	チェコ	43,300
21	イタリア	33,226	21	日本	43,236
22	韓国	31,846	22	韓国	43,143
23	スペイン	29,565	23	スペイン	42,195
24	スロベニア	25,941	24	イスラエル	42,146
25	エストニア	23,718	25	スロベニア	40,983

World Bank: GDP per capita (current US\$)-OECD members (左)

World Bank: GDP per capita, PPP (current international \$)-OECD members (右)

を参考にして作成

トップ10 (左側の米ドル) を見ると、今までと同じように、ヨーロッパ諸国が8カ国 (ルクセンブルク、スイス、アイルランド、ノルウェー、アイスランド、デンマーク、オランダ、スウェーデン) と多いのが特徴です。日本は20位です。また、PPP (国際ドル) で見れば、19位のニュージーランドから、チェコ、日本、22位の韓国までほぼ同じ水準であることも分かります。

次に、「GDP」、「人口」、「国民一人当たりのGDP」の三つを次頁の表2のようにまとめてみました。GDPは『国の経済規模』を表しておりますので、経済大国である世界1位のアメリカ、2位の中国、4位のドイツ、5位のインド、6位のイギリスは新型コロナウイルスのワクチンを開発しております。11位のロシアも新型コロナウイルスのワクチンを開発しています。残念ながら、世界3位の経済大国である日本は当然ワクチンを開発できるはずですが、今のところ実現しておりません。何故でしょうか。また、日本は医療先進国のはずです。しかし、日本のコロナ感染者数・死亡者数が、欧米諸国や感染者数・死亡者数の多い国と比べて極端に少ないのに、病床が逼迫し、医療崩壊寸前なのは、何故でしょうか。これらには原因があるはずですが、これらについては、後でお話したいと

思います。

一方、GDP では世界 2 位の経済大国である中国、5 位のインドは、「国民一人当たりの GDP」では、まだまだ開発途上国であることが分かります。ブラジル、ロシアも同じです。こうした国は人口が多いので、GDP 総額は巨額に上りますが、経済格差が大きいのです。人口を考慮すると、各国の経済事情・社会事情等がよく分かります。それでは、表 2 を見ていきましょう。

表 2

GDP 順位	国名	米ドル	人口 単位千人	GDP per capita 米ドル
1	アメリカ	21 兆 4332 億	3 億 2824 万人	65,298
2	中国	14 兆 3429 億	13 億 9771 万 5 千人	10,217※
3	日本	5 兆 0818 億	1 億 2626 万 5 千人	40,247
4	ドイツ	3 兆 8611 億	8309 万 3 千人	46,468
5	インド	2 兆 8689 億	13 億 6641 万 8 千人	2,100 ※
6	イギリス	2 兆 8291 億	6683 万 6 千人	42,329
7	フランス	2 兆 7155 億	6705 万 6 千人	40,496
8	イタリア	2 兆 0035 億	6030 万 2 千人	33,226
9	ブラジル	1 兆 8398 億	2 億 1105 万人	8,717※
10	カナダ	1 兆 7364 億	3759 万 3 千人	46,190
11	ロシア	1 兆 6999 億	1 億 4440 万 6 千人	11,585※
12	韓国	1 兆 6467 億	5170 万 9 千人	31,846
13	オーストラリア	1 兆 3966 億	2536 万 6 千人	55,057
14	スペイン	1 兆 3935 億	4713 万 4 千人	29,565
15	メキシコ	1 兆 2689 億	1 億 2757 万 6 千人	9,946

World Bank: GDP 2019 (current US\$) (左)

World Bank: Population, total—World 2019 (中)

World Bank: GDP per capita 2019 (current US\$)—OECD members (右)

※印は World Bank: GDP per capita 2019 (US\$) (右)

を参考にして作成

表 2 でも分かるように、日本は「GDP」はアメリカ、中国につぎ世界 3 位の経済大国であります。しかし、日本の「国民一人当たりの GDP」になると、表

1 (左側) のように、経済大国の日本が OECD 加盟国中で、20 位 (OECD に加盟していないシンガポール、カタール、香港などの国・地域を含めると、世界順位はさらに下がります) であるとは、皆さん夢にも思っていなかったことと思います。

日本は 1988 年には、WITS (World Integrated Trade Solution) によると、「国民一人当たりの GDP」は、世界 1 位のスイス (31,744 米ドル)、世界 2 位のルクセンブルク (26,108 米ドル) につぎ、世界 3 位 (25,052 米ドル) でした。日本は” Japan as No.1” と呼ばれた時代で、日本経済の絶頂期でした。この時代は、日本はまさに本当の意味での「経済大国」と言ってもよかったです。その後、バブルが崩壊し、約 30 年間で、「日本の国民一人当たりの GDP」が世界 3 位から 20 位 (OECD 加盟国中) にまで凋落してしまいました。その間、「GDP」も中国に抜かれ、世界 2 位から 3 位に後退いたしました。しかも、中国と日本の GDP 総額の差は、表 2 にあるように大分開いてしまいました。これにも、皆さん驚いたのではないのでしょうか。

バブル崩壊後に何が起きたかを調べていきますと、一つは賃金が殆ど上昇していないことが分かりました。22 年間に亘る大卒初任給を一つの例として調べてみました。厚生労働省の「賃金構造基本統計調査 (初任給)」によると、

1997 年 (平成 8 年)	➡➡➡➡	191,900 円
2000 年 (平成 12 年)	➡➡➡➡	195,100 円
2006 年 (平成 18 年)	➡➡➡➡	196,300 円
2010 年 (平成 22 年)	➡➡➡➡	197,400 円
2016 年 (平成 28 年)	➡➡➡➡	203,400 円
<u>2019 年 (令和元年)</u>	<u>➡➡➡➡</u>	<u>210,200 円</u>

となっています。これは男女平均の初任給です。大卒初任給は、ここ 22 年間で 18,300 円の増加で、22 年で割ると 1 年で約 832 円の上昇となります。この上昇率を皆さんいかが思いますか。22 年間で僅か 18,300 円しか上がっていないのです。皆さんの初任給や子供さんの初任給と比べていかがでしょうか。バブル崩壊後の 30 年は、大変厳しい時代であったことが、初任給の面からもお分かりになったと思います。これは、「国民一人当たりの GDP」が世界 3 位から世界 20 位 (OECD 加盟国中) に凋落した結果によるものではないのでしょうか。要

するに、日本の経済活動が停滞しているということです。「まさか、日本が」と思われるでしょうが、これが日本の現実だと思います。世界各国と国際比較をして見ると、自国が今どのような状態にあるのかが、今回もよくお分かりになったことと思います。次回は「映画」の話をしたいと思っています。